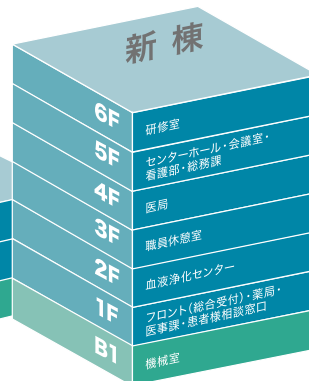
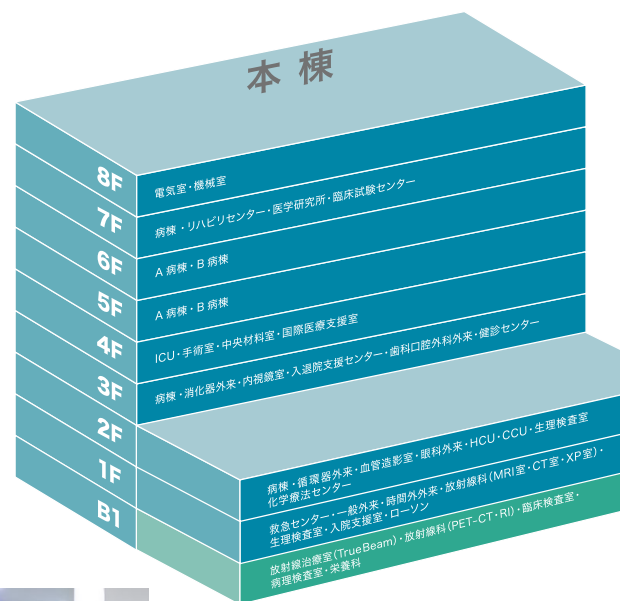


FLOOR GUIDE



診療科目

内科・循環器内科・呼吸器内科・呼吸器外科・整形外科・心臓血管外科・形成外科・消化器センター(消化器内科)小児科・乳腺外科・耳鼻咽喉科・頭頸部外科・麻酔科・歯科口腔外科・整形外科外傷センター・救急集中治療センター・総合診療部・炎症性腸疾患センター(IBDセンター)・外科・脳神経外科・眼科・放射線治療科・皮膚科・リハビリテーション科・放射線診断科・泌尿器科・病理診断科

看護対策委員より

札幌東徳洲会病院は、道内1の救急搬送件数を誇る急性期病院です。教育委員会が主催する各種研修やグループ内研修、特定看護師や認定看護師などの資格取得制度も充実しており、キャリアアップを目指す職場です！一緒に挑戦×成長、夢の実現をしませんか？病院見学会を開催していますので、ぜひ一度お越しください！看護部のInstagramものぞいてみてくださいね、お待ちしております！！



医療法人 徳洲会
札幌東徳洲会病院

札幌市東区北33条東14丁目3番1号
TEL.(011)722-1110 / FAX.(011)722-0378

札幌東徳洲会病院

検索



ACCESS

地下鉄東豊線「新道東駅」・5番出口より徒歩3分
地下鉄南北線「北34条駅」より中央バス76・78乗車、東12丁目下車徒歩1分
高速道路「伏古インター」「札幌北インター」降りて約5分



医療法人 徳洲会

札幌東徳洲会病院

YOUR CHALLENGE, OUR FUTURE

一緒に成長できる仲間とともに



看護職員募集案内

SAPPORO HIGASHI
TOKUSHUKAI HOSPITAL



病院長 山崎 誠治



看護部長 老人看護専門看護師 渡邊 綾

院長からのご挨拶

「断らない医療」を掲げる当院は、地域の皆様に24時間365日、安心して医療を受けていただける環境を提供しています。私たちは、年間を通じて多くの救急搬送を受け入れ、決して搬送を断らない姿勢で地域に貢献しています。そのために、最新の医療技術と設備を備え、医療従事者にとっての専門知識と技術を磨くための環境を整えています。

看護師を目指す皆さんには、ぜひ患者様を家族だと思い、心からのケアを提供していただきたいと考えています。心からのケアは、患者様に安心感と信頼を与え、治療の効果を高めるだけでなく、患者様の回復を促進します。看護という職業は、単なる技術や知識の提供にとどまらず、人間としての温かさや共感をもって患者様に接することが求められます。看護師は、患者様の最も近くで支え、励まし、時にはその命を預かる重要な役割を担っています。この職業には、強い使命感と責任感が必要ですが、その分だけ大きなやりがいと誇りを感じることができるでしょう。

札幌東徳洲会病院での学びを通じて、私たちと一緒に成長しましょう。

看護部長からのご挨拶

病気やけがは病院の診察時間に合わせて発症するものではありません。ですから私たちは患者様中心の医療を提供するため、24時間365日患者様を受け入れております。当院ではあらゆる疾患の救急患者様を受け入れるため、幅広い医療の知識と看護スキルの獲得が可能です。看護部は「心が届く看護」の実践を目指しております。そのためには患者様・ご家族の立場になり、よき理解者、よき代弁者として看護師の役割を果たすよう、日々努力する必要があります。

当院では徳洲会グループのスケールメリットを活かした研修制度や教育体制を整備しており、時代の変化に対応できる看護師の育成を心がけております。スペシャリストやエキスパートの育成にも力を入れ、仲間とともに成長できる病院を目指しております。

私たちと一緒に「心が届く看護」を実践しましょう。



看護部方針

PHILOSOPHY OF THE
NURSING POLICY



看護部理念

心にとどく看護



副看護部長 認定看護管理者 車谷 文子

徳洲会グループ看護部の理念は、「心が届く看護」を実践することです。

理念を実行する上で、当院のような急性期病院では、患者様と関わる時間が短くても、患者様のニーズを把握し、個々の特性に合わせた看護を提供することが大切です。毎日、沢山の患者様やご家族と関わる中で、病気はもちろんですが、患者様の価値観、そして人生に関わることも多く、看護師として、人としても大きく成長できる環境です。

新たなことに挑戦する行動力、そして柔軟性ある当院の仲間と一緒に働いてみませんか。

看護部基本方針

- ① 病める人の人格と権利を尊重し、思いやりのある看護を提供します。
- ② 病める人が安心して医療が受けられるよう安全・安楽な環境作りをします。
- ③ 医療チームと協働し、地域の人々の健康問題に積極的に関わっていきます。
- ④ 医療・看護・福祉を学ぶ人々に学習効果のあがる教育の場を提供します。
- ⑤ 研究・学習を通し臨床看護の質の向上に努めます。
- ⑥ 職業人としての成長を図り自己キャリア開発に努めます。

看護部体制

- 看護方式・・・チームナースング
- 看護体制・・・急性期一般入院科1
特定集中治療室管理科(ICU)2:1
ハイケアユニット入院医療管理科(HCU)4:1
看護補助体制加算25:1
- 勤務体制・・・2交代制
- 勤務時間・・・日勤/8:30~17:00、夜勤/16:30~9:00

教育委員会より



教育委員会では新卒看護師の卒後研修の他、継続教育に対してはクリニカルラダー別で研修を企画運営しています。新卒研修は採血、末梢静脈確保、吸引、オムツ交換など、臨床の場で必要とする手技について、事前に研修で学ぶ事ができます。また、参加者が主体的に研修に参加できるようなシミュレーション研修を多く取り入れています。

シミュレーション研修では実際の場面に近づけて行う事で、よりリアルな体験をすることができます。研修の場だけでなく、臨床の場でより実践に結びつけられるような研修となっています。

研修全体を通して「気づきと理解」を大切に、研修後には実際に部署でアウトプットできるような研修を企画し、参加者が楽しく学べる環境を整備しています。

また、臨床実践能力の向上や看護の楽しさに気づき、学び続けたいと思ってもらえるような教育体制を目指しています。



病院紹介

HOSPITAL REFERRAL

いつでも、どこでも、誰でもが
最善の医療を受けられる社会を目指して

最先端医療
「ハイブリッドER」
道内初導入



充実した環境で
患者さまの健康と
生活を守ります。

GROUP INITIATIVES

国際支援室



20カ国以上の言語に対応 ～外国人患者さまへの対応実績～

国際医療支援室は2013年4月に設立されました。徳洲会の理念「いつでも、どこでも、誰でもが、最善の医療を受けられる社会」を目指して、言語や国籍、人種を問わず、日本語で受診することに不安を持つ方が、安心して当院を利用いただけるよう、環境の整備に取り組んでいます。

外国人の旅行者や在住者、中国やロシアから帰国した在留邦人を念頭に、英語、中国語、ロシア語の通訳を担当するスタッフが常勤し、外国語での問い合わせ対応から、外来では受付～問診～診察～検査～会計、病棟での経過説明や帰国手配などの際に、通訳や手続きの支援を担当します。

それ以外の言語や夜間・休日には、外部の遠隔通訳サービスを利用します。英語、中国語、ロシア語はもちろん、ベトナム語やインドネシア語、ネパール語、ウルドゥ語などの希少言語を含めて20カ国語以上に対応しています。遠隔通訳サービスの端末は、総合受付、救急科、病棟、薬局にも常備され、各職員が身近に利用できます。

札幌市では、外国人の観光客だけではなく、在住者も急増しており、当院の外国人患者数は増加傾向にあります。当院で看護師として働くことは、外国語に触れる機会も多く、英語や韓国語など“外国語が話せる看護師”を目指すチャンスとなるかもしれません。

DISASTER MEDICAL

災害医療活動



TMAT (徳洲会災害医療救援隊)

徳洲会の医師や看護師ら職員で組織するNPO法人TMATは、国内外の被災地にいち早く出動し、災害医療支援活動を行っています。TMATが主催する研修会、「災害救護・国際協力ベーシックコース」や「国内災害医療支援トレーニングコース」を受講し、活動に参加することが可能となります。自らの病院を守る「病院防災」についても研修を行い、万が一の災害発生時に、より迅速で適切な判断のもと、被災地の人々にとって真の医療支援活動を行うことに努めています。

DMAT (災害派遣医療チーム)

医師、看護師、業務調整員で構成され、大規模災害や多傷病者が発生した事故などの現場で、災害急性期に活動できる機動性をもち、専門的な訓練を受けた医療チームです。当院は国からDMAT指定医療機関の指定を受け、日本DMATを保有しています。丘珠空港に近く、広域搬送拠点臨時医療施設としての役割の他、トリアージ(緊急度・重症度分類)や初期治療など応急救護所としての役割も担っています。

被災された方の「医療者の姿を見るだけで心の支えになる」という声や、過去の活動経験を活かし、少しでも被災地の力となれるよう、日々訓練に励んでいます。災害医療に興味のある方、ぜひ私達と一緒に活動しませんか？

『重症・複合疾患にも対応できる、充実したチーム医療の提供』



断らない救急の実践

- 年間約1万件の救急搬送の受け入れ
- 救急キャンセル率0%に向けた体制の構築
- 札幌市と「外国人患者の受入に関する協定」の締結



地域連携の強化

- 入院前から退院後を見据えた入退院支援の実践
- 近隣の病院・介護施設・在宅医療との連携



専門性の高い医療・看護

- TAVI、MitraClip、MICSなど低侵襲治療の取り組み
- 外傷整形手術、年間1500件以上の実績
- 道内屈指の専門的なIBD検査・治療
- 徳洲会グループや院内独自の認定・資格制度
- 多職種で活動する専門知識の高いチームのサポート
(褥瘡対策、感染制御、認知症ケア、口腔ケア、NST、RRS、RSTなど)





看護部紹介

INTRODUCTION OF
NURSING DEPARTMENT

働きやすい人間関係があるから、 教育体制が生きてくる。



2階病棟

急性期や慢性疾患など心臓に関わる疾患の看護を行っています。急性期では循環動態管理、慢性期では、意思決定支援や退院支援などを行っています。定期的な勉強会を行い循環器領域のエキスパートナースを目指しています。

3階病棟

3階病棟は消化器・炎症性腸疾患・放射線科の幅広い内科系疾患に対応し、患者さま一人ひとりに思いに寄り添った看護を実践しています。慢性期から急性期そして終末期までの多岐にわたる病態に対応し、個々の専門性を生かし他職種と連携し質の高い医療サービスを提供しています。

5階A病棟

消化器外科、整形外科、乳腺外科、口腔外科、呼吸器外科の混合病棟です。周手術期からがんの終末期と幅広い看護を提供しています。安心・安全な入院環境の提供を常に考えること、笑顔を心がけることを目標に取り組んでいます。

5階B病棟

外傷中心の病棟では、入院時から積極的に退院支援を行い、自宅や施設へスムーズに退院できるよう介入しています。患者さまと目標を共有し、早期離床・リハビリによるADL拡大と、せん妄予防に力を入れ、周手術期の看護を行っています。

7階病棟

7階病棟はがん終末期の患者さまの入院も多く、終末期患者様とご家族に寄り添った看護ケアを提供していきます。患者さま・ご家族の希望をどのようにしたら叶える事ができるか多職種でカンファレンスを通じ実践していきます。

ICU

高い専門性を持って術後や全身状態が重篤な状況にある患者さま・ご家族のニーズを引き出し、寄り添った医療を実践できるよう日々取り組んでいます。生命に直結する分、回復への喜び・やりがいの大きい部署です。

外来

外来部門は多岐にわたる診療科があり、1日600人前後と多くの患者さまが来院されます。看護師はスムーズに診療ができるよう診察介助を行い、病状に合わせた食事・内服に関する指導や、日帰り手術などの対応を行っています。安心して治療を受けられ、在宅で過ごすことができるようサポートをしています。

手術室

手術が必要な患者さまにすぐに対応できるよう、当直体制を取っています。スタッフ皆「患者さまのために」という思いで頑張っています。外傷は固定チーム制としており、より質の高い看護を提供できるように力をそそいでいます。

6階A病棟

周手術期、緩和ケア、2泊3日で帰宅される超短期入院患者さまの看護を行っています。脳神経外科の患者さまが多く占め、入院時から退院を視野に入れた退院支援への看護を強みにしています。多職種で患者さまの情報共有を密にし、よりよい看護を提供することを目指しています。

CCU

循環器疾患に特化したハイケアユニットです。心外術後や緊急入院などの状態が変化しやすい、重症度が高い患者さまのケアを行っています。そのため、高い知識と技術が求められ、より循環器領域において専門性が求められる部署です。

ER

当ERは道内で救急搬送受け入れNo.1の実績と、唯一HERS(Hybrid ER System)を導入しています。より迅速で正確な診察・検査・治療を行なうことができるよう、医師や救命士、薬剤師などの多職種と連携し、診療だけでなく患者さまやご家族に寄り添った看護の提供を心がけています。

化学療法センター

通院が可能な患者さまの化学療法や、炎症性腸疾患(IBD)の患者さまの点滴投与などを行っています。緩和ケア外来もあり、患者さま・ご家族がもつ不安や疼痛に対し、医師・薬剤師・入退院支援センターなど、チームで連携して患者さまが安心して治療を受けられるよう、看護を行っています。

NPチーム

診療看護師は、大学院で特定行為研修を含むプログラムを修了し、NP大学院協議会の定める試験に合格した者を指します。各診療科に所属し、看護と医学的な視点を持ちながら、患者さまのQOL向上のため、担当医とともにケアとキュアを提供しています。

6階B病棟

虚血性心疾患や心不全、弁膜症、不整脈疾患、ASOなどの循環器疾患の看護を行う病棟です。人工呼吸器が必要な患者さまもおり、先輩のサポートのもと急性期看護を学ぶことができます。スタッフが不安なく自分らしく働ける病棟であること、「患者さまの思いを聴ける看護師」の育成に努めています。

HCU

当部署は、救急科や循環器内科の急性期治療をはじめ、外科系の周手術期の患者さまが入院されており、様々な疾患を学ぶことができます。また、4:1看護であり、一人の患者さまにケアの時間を作ることができ、やりがいを実感できます。

画像治療検査部門

専門性の高い検査や治療をする部門です。検査・治療に不安を感じている患者さま、救命治療を受ける患者さまとご家族が安心して治療をうけられるよう笑顔でサポートします。内視鏡、INE認定看護師など、やさしく頼りになるエキスパートを育成します。

血液浄化センター

入院・外来の患者さま、また外国人に対し、透析導入～維持・重症患者の緊急透析・アフェレーシスやDHPの実施・管理を、専門的知識と技術を持った看護師・臨床工学士と協働し、業務しています。生活指導・教育・フットケアを主に看護ケアとして関わっています。

入退院支援室

入院支援看護師は、入院前から患者さまの日常生活を把握し、各部門と連携しながら情報提供や課題の共有を行います。退院支援看護師は、退院前後訪問等を活用し、在宅において適切な療養を行えるよう支援しています。

部署紹介

充実した診療科のため幅広い分野の経験が積めます



教育プログラム

EDUCATION PROGRAM



1年間のあゆみ

新採用者研修

- 感染予防
- 医療安全とリスクマネジメント
- フィジカルアセスメント
- ベッドメイク
- ポジショニング・オムツ交換 など

フォローアップ研修Ⅰ,Ⅱ,Ⅲ

- 電子カルテの操作
- 採血・血糖測定
- 末梢静脈確保

フォローアップ研修Ⅳ,Ⅴ

- 医療機器の使い方
- 食事介助・口腔ケア

フォローアップ研修Ⅵ

- 吸引・導尿

フォローアップ研修Ⅶ

- 認知症看護

フォローアップ研修Ⅷ

- BLS

フォローアップ研修Ⅸ

- シミュレーション研修

フォローアップ研修Ⅹ

- 接遇研修
- 1年間のまとめ

一個々の考える力の育成を大切に

新人研修は実施回数を増やしており、今年度は10回の実施を計画しています。研修後のアンケートでは、新人さんが何に困っているのか、どんなことを知りたいのかを聞き、研修内容を常にアップデートしています。

研修は、各部署のリンクナースの先輩が支援者として参加しています。1年間同じメンバーで研修をするため、支援者との関係性も構築でき、安心して楽しく学びあえる環境となるよう心がけています。看護技術はもちろん、認定看護師による講義や演習も取り入れており、現場で活きる知識や技術、個々の考える力の育成を大切にしています。

これからも一緒にステップアップしていこう！



◆ オリエンテーション



◆ 電子カルテの使い方



◆ フィジカルアセスメント



◆ 吸引・導尿



◆ BLS



◆ 1年間のまとめ



新人の1日



◆ 地下には職員食堂があります

- 前半・後半に分かれて1時間休憩

11:30 休憩

- 昼食の配膳
- 食事量のチェック

12:00 配膳

14:00 カンファレンス

- テーマを決めてカンファレンスを実施



◆ 検査のご案内



プリセプターシップによる一貫教育、優しく頼れる先輩のフォローがあるので、急性期への入職に不安を抱く必要はありません。あなたの個性や要望に合わせた教育スケジュールを作成するので大丈夫！ここで豊富な症例数による臨床実践能力を身につけ、あなたの理想の看護師像と一緒に追求めましょう！



スタッフ相談室

月2回、臨床心理士が希望者にメンタルサポートを行います。





プリセプティ & プリセプター

PRECEPTEE &
PRECEPTOR



ICU プリセプティ

重症度の高い患者さまが多く、観察やケアに特に力を入れる必要があるICUで、自分自身の知識や経験を身につけたいと思い、配属を希望しました。

はじめは、見たことのない機械を使用していたり、状態が安定しない患者さまが多い中で、自分自身がこの患者さまを看護することができるのか、不安が大きい状態でした。そんな中、プリセプターの先輩が、私に合った学習方法を一緒に考えてくれ、不安なことがあると親身に相談にのってくれるので、都度、不安を解決した状態で患者さまに向き合うことができています。プリセプターをはじめとしたICUの先輩方の日々のサポートがあり、受け持てる患者さまも増え、大変ではありますが毎日楽しく働くことができています。

日々状態が変化していく患者さまを看るのは大変ですが、患者さまの状態が良くなってきたのを実感した時は、自分が行った看護が患者さまの回復に繋がったのではないかと思います、やりがいを感じています。



ICU プリセプター

入職当初はとても緊張していましたね。月日が経ち、少しずつ緊張が解けてきたと感じています。様々なライフステージにあるスタッフがいるので、仕事やプライベートの面で話しやすい・相談しやすい環境だと思います。勤務中の緊張した面持ちから笑顔がみられるようになりました。

入職して半年過ぎました。ここでは、心臓血管外科や循環器内科、脳神経外科、消化器外科、救急科と様々な診療科、病態を看することができます。自信をもってできることが増えたのではないのでしょうか。まだまだお互い勉強途中ですが、一緒に頑張りましょうね。



教育担当コメント

新卒でICUに配属となり、勉強することが多く大変だったと思います。課題にぶつかってもありましたが、どうしたら課題を乗り越えられるか、プリセプターをはじめとした先輩達と考え、努力を積み重ねている姿を見てきました。患者さんやご家族の思いに寄り添った看護を実践している姿を見て、日々成長を感じています。



ER プリセプティ

看護学生の時、外出中に目の前で人が倒れた場面に遭遇したことがあり、救急車を呼ぶという体験をしました。この体験から突然の事故や疾病により生命の危機状態にある人を助けたいという気持ちが芽生え、救急車の搬送台数が多い当院のERを志望しました。

ERは全診療科の疾患が対象のため、基本的な知識・技術に加え、より専門的な知識・技術・病態生理とアセスメント能力が求められる大変な部署ではありますが、先輩たちが優しく教えてくれます。また、重症度の高い患者さまも多く、急変する可能性を考え行動する必要がありますが、精神的な負担もありますが、悩んだときにはプリセプターが話を聞いてくれるなどのフォローもしてくれるため、楽しく仕事をすることができています。

今後は先輩たちのようにバイタルサインや身体所見、検査結果から臨床学推論を元に看護ケアを提供できる看護師になることが目標です。



ER プリセプター

入職時は、緊張と不安の気持ちでいっぱいなのだろうという印象でした。看護学校の実習では病棟実習がほとんどなので、ERは初めてで無理もないだろうと思いつつ見守っていました。ERでは次々と搬送されてくる患者さまを受け持ち、病態の把握や治療方法など毎日新しいことの繰り返しで、積み重なる課題を乗り越えながら看護をおこないます。現在では、着々と知識が積み重なり、できることや理解できることが増え、成長を感じています。今後は重症度の高い患者さまの受け持ちが始まっていくので、さらなる成長を期待し、共に頑張っていきたいです。



教育担当コメント

救急搬送される患者さまは重症度も高く、迅速な判断や処置、観察が必要です。危機的状況にある患者さまに対し、身体面だけでなく心理的・社会的側面からも関わるスキルを身につけるのは、一朝一夕にはいきません。そんな中、患者さまやご家族に寄り添った看護ができるよう、プリセプティ・プリセプター共に日々研鑽している姿を見て、頼もしく感じています。



7階病棟 プリセプティ

私は急性期について学びたいという思いで当院を選びましたが、初めは配属先の希望はありませんでした。そんな中、配属された7階病棟では、呼吸器内科・救急科・形成外科・整形外科・眼科を始めとする多くの診療科を診ているため、様々な疾患について学ぶことができます。

もちろん新人ということもあり、業務や知識に関して覚えるのは容易ではありませんが、先輩方のフォローや患者さまからの感謝の言葉等をいただくことで、私自身のやりがいに繋がっています。また、入院時は重症であった患者さまが治療を通して徐々に回復し、最終的に笑顔で退院する姿をそばでみられることも、病棟の良いところです。

今後は患者さまの思いに寄り添い、先輩方から教わったことに対して的確かつ迅速な対応を心がけ、患者さまだけでなく、ご家族やスタッフからも信頼される看護師に成長していきたいと思っています。



7階病棟 プリセプター

プリセプティの良いところは、患者さまやご家族に対し優しく、笑顔で対応が出来ることです。当院は急性期病院であり、患者さまは緊急で搬送されたり、治療を導入したばかりの方が多く、今後の治療や生活に対して不安を感じていらっしゃると思います。特に、7階病棟は呼吸器内科が主科であり、化学療法への導入や終末期の患者さまも多くいる中で、患者さまに寄り添い不安の軽減を図り、安心して治療を受けられる環境を整えることは看護師にとって大事な役割です。プリセプターをしていると初心を思い出し、また指導するため日々学習する必要があるのですが、お互い成長し合うことができています。

1年経った後もプリセプターは頼れる相談相手！

昨年の
プリセプティ&
プリセプター



右も左もわからない1年目でしたが、毎勤務わからないことのフォローと振り返りをしてくれました。仕事でうまくいかなかった時も、常に明るい声かけをしてくれたので、自分の自信と成長に繋がりました。1年経った今でも、仕事の相談はもちろん、仕事以外の相談もできる、頼れる先輩です！



教育担当コメント

教育係として新人スタッフの働きを間近で見えています。一人のできるものがたくさん増え、7階病棟で頼もしい存在です。忙しい中でも、【患者さまの立場に立つ】看護を考えることが出来ていて、素敵だなと思いながら、日々成長を感じています。これからも一緒に頑張っていきましょう！



手術室 プリセプティ

私は、日々忙しく働ける病院に就職したいという気持ちがありました。当院は、救急車の年間受け入れ件数が道内トップであり、外傷センターにおいては、整形外科専門医を中心に幅広い症例を受け入れていることを知りました。沢山の経験を重ねることができ、自身の看護師としてのスキルアップにもつながると感じ、就職しました。

手術室に配属が決まったとき、学生では器械出し看護師の技術や知識はほとんど学ぶ機会がなかったため、正直不安がとても大きかったです。しかし、手術室の先輩方は私が疑問に思うことを丁寧に指導してくださり、特にプリセプターの先輩は、手術が始まる前には必ず「頑張るんだよ」と声をかけてくれ、沢山の人の支えられていると感じています。日々勉強の毎日で大変なこともありますが、その分やりがいを感じる場面も多く、これからも頑張っていきたいと思います。



手術室 プリセプター

手術室へ配属となり、慣れない環境の中で技術の習得や手術・疾患の学習、日常業務を一生懸命行っていました。

私が1番の理解者となれるよう、毎日会話を交わすことや、ゆっくりと相談する時間を作ることを心がけ、一緒に学ぶことができる関係を築きました。プリセプティや手術室のスタッフから、できるようになったことの報告を聞くたびに、成長を感じ嬉しく思います。今では患者さまの安全を守る手術室看護師として活躍しています。これからも見守り、一緒に成長していきたいと思っています。

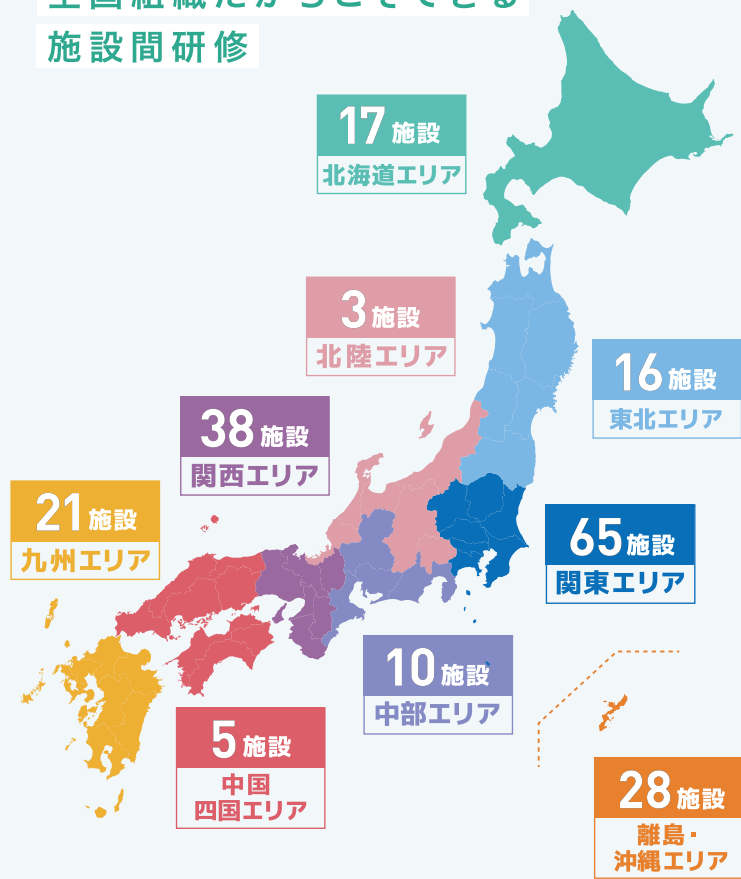


教育担当コメント

入職当初から手術室というなれない環境で戸惑うことが多かったと思いますが、今では、器械出し看護師として、医師とコミュニケーションをとりながら、手術進行を予測し、スムーズな器械出しができる手術が増え、とても頼もしく、成長を感じています。



全国組織だからこそできる
施設間研修



クリニカルラダーに沿った目標と
研修があります

専門看護領域 クリニカルラダー			
	到達目標	レベル別研修	徳洲会グループ研修 その他
 LEVEL V	より複雑な状況において QOLを高めるための 看護を実践する	ベテランナース研修 倫理研修	ベストプラクティス 研修
 LEVEL IV	幅広い視野で 予測的判断を持ち 看護を実践する	臨床指導者研修 クロス研修 ベストプラクティス 研修	TMAT ベーシックコース 災害支援研修 BLS・ACLS インストラクター コース
 LEVEL III	ケアの受け手に合う 個別的な看護を 実践する	卒後3年目研修 プリセプター フォローアップ研修 リーダー研修B 倫理研修 クロス研修	TMAT アドバンスコース スペシャリストコース 特定行為研修 グローバル研修
 LEVEL II	標準的な看護計画に 基づき自立して 看護を実践する	卒後2年目研修 既卒入職者研修 リーダー研修A プリセプター研修	BLS・ACLS プロバイダーコース 地域研修
 LEVEL I	基本的な看護手順に 従い助言を得て 看護を実践する	入職時研修 フォローアップ研修 (全10回) 多職種研修 (全4回)	

ベストプラクティス研修

所属する病院を離れ、他の徳洲会グループの病院や施設でそれぞれの専門分野を学ぶ研修です。徳洲会グループで入職2年目以上のスタッフが対象で、全国各地、都市部から離島・へき地まで、多数の拠点を持つ徳洲会グループだからこそ実現する研修です。



これまでの看護師経験を活かして、ACP(将来の変化に備え、今後の医療及びケアについて、本人を主体に、ご家族や近しい人、医療・ケアチームが、繰り返し話し合いを行い、本人による意思決定を支援する取り組み)に興味を持つようになりました。ベストプラクティス研修では、各地のグループ病院でその特色にあった分野を学ぶことができます。山梨県にある白根徳洲会病院では、終末期看護について学ぶことができ、研修に参加しました。終末期病棟では、外来から病棟に入るまでに人生の最後を想定し、様々な約束事を決めてから入院することで、自分が望む最期を迎えることができる環境が整っていました。急性期病棟に勤めておりますが、参考にできることが多く、とても学びのある研修でした。



◆研修後は福岡で有名な中洲を満喫



◆沖縄 宮古島の透き通った青い海も
思い出に！

クロス研修

院内の他部署で1～2週間の研修を行い、他部署の業務や特徴、自部署では経験できないケアや治療について学びを深めます。個人のスキルアップだけでなく、継続看護やチーム医療の向上を目指します。部署異動の機づけにつながることもあり、当院経験年数3年以上のスタッフが対象です。



入職時から働いていた病棟で検査・治療前後の患者様を受け持つことが多く、実際の流れを知りたいと思ひ研修に参加しました。

血管造影室では、多職種が連携し検査・治療をおこなっています。重症症例を含め、幅広い疾患の対応をされており、円滑なコミュニケーションが重要となります。看護師は、チームワークが最大限に発揮されるよう働きかける役割があると学びました。

循環器センターがある当院では、年間の血管造影件数も多く各職種の専門性も高いため、研修を通じ、自分もここで学びたいと思ひ異動を希望しました。

今後は知識と経験をさらに積んで、より専門性の高い看護が出来るようになります。

まだ未熟で日々勉強ですが、先輩方に教えていただき楽しく働いています。



◆ 1～4年目は一般病棟に勤務していました



◆ 今では新しい環境にも慣れて活躍しています！

スペシャリスト達の
成長をサポートします！

限りない可能性を持つ皆さんには、
様々な事に挑戦し成長してほしい。
当院にはそれを支援する体制が整っています。

スペシャリストになるための支援制度

対象者	①当院にて実務経験5年以上 ②病院が運営上必要と認める認定資格取得を希望するもの
処遇・研修費用	①研修期間中の固定給の保証 ②研修費用は全て病院負担(交通費、宿泊費含む) ③資格取得後は3年以上勤務 ④認定資格手当の支給



診療看護師

外科病棟で勤務をしているときに、医師が手術や外来で対応しており、患者様が病状変化で苦しんでいるところを待つしかできなかった経験をしました。診療看護師がいれば、医師と相談し、患者様の病状変化にタイムリーに対応できるのではないかと考え、診療看護師を目指しました。

働きながら大学院に通っていたのですが、休みがほとんどなく、とても大変でした。

家族の支えや師長・病棟で働く仲間の協力があり、診療看護師の資格を取ることができました。

現在、循環器内科に所属し、医師と協働しながら患者の急変時の対応や退院調整、PICC挿入や動脈血採血などの特定行為を実施しています。患者様・ご家族様からの感謝の言葉をいただいたり、他職種連携の橋渡しになれているという実感があり、とてもやりがいを感じています。



認知症看護認定看護師

認知症看護認定看護師として認知症の人へのケアや、身体拘束の削減、せん妄対策に取り組んでいます。当院は救急搬送され、入院となる患者様が多いです。認知症の方が高齢者は環境の変化に弱く、せん妄やBPSDを容易に起こします。認知症の方が安心して治療を受けるにはどうしたら良いか、せん妄予防にはどのようなケアが必要なかを多職種で考え、実践しています。急性期病院では珍しい院内デイケアも開催しています。急性期看護では状態が常に変化するため、スピーディで的確な判断が必要ですが、認知症の方には丁寧で細やかな対応が必要です。いっけん相反するように思えますが、そこに急性期病院で認知症ケアをすることのやりがいを感じています。ぜひ、当院で一緒に認知症ケアを極めましょう。



感染管理認定看護師

感染症は、医療者の手を通して感染を拡大してしまうことがあります。

私たちが患者様の命を守り、安全で安心できる療養生活を提供するためには、すべての患者様に対して、感染対策を正しくおこなう必要があります。

私は、感染対策について、正しい知識・技術を身に着けたいと考え、感染管理認定看護師の資格を取得しました。

当院では、正しく感染対策が遂行され、感染のリスクが低減されるよう、感染対策チームが活動しています。私もチームの一員として、多職種で一元となって取り組むことに、日々やりがいを感じています。

「特定行為研修について」

特定行為とは、高度かつ専門的な知識・技能を、特定行為研修を修了した看護師が、医師による手順書に基づいて行う診療の補助のこと。当院では、2区分3行為（中心静脈カテーテルの抜去・直接動脈穿刺法による採血・橈骨動脈ラインの確保）を院内の研修機関で取得することができます。

看護師通算5年以上で、所属長の推薦があるスタッフが受講することができます。院内外を組織横断的に、高度な臨床実践能力をもって活躍し、チーム医療の中心となる看護師を育成することを目的としています。



特定行為看護師

特定行為研修を受講したことで、患者さまの状態変化をより深くアセスメントし根拠を持って看護を実践できるようになりました。

現在は手術室看護師として勤務しており、周期期の患者さまが安心して治療を受けられるよう、多職種と連携しながら日々看護を行っています。特定行為で学んだ知識や技術は、術前・術中・術後の観察や迅速な対応につながっており、実践の場で大きく活かされています。

また、医師の考えや治療方針への理解も深まり、より広い視点で患者さまを捉えられるようになりました。

今後も専門性を高めながら、患者さまに安全で質の高い医療を提供できるよう努めていきたいと思っています。



福利厚生

WELFARE

休日は好きなことをして
しっかりリフレッシュ！



子育て支援や寮も充実。安心して仕事を続けられる環境です。



📷 札幌東徳洲会病院の看護職員が撮影した北海道の四季を感じる素敵な写真です



看護職員寮

看護職員寮1



看護職員寮2



近隣エリアマップ



オートロックで防犯対策も安心
買い物や外出に便利な好立地

個人でマンション等を借りる方、持ち家の方には住宅手当を支給します

間取り一例



子育て支援



毎日忙しい日々ですが、24時間体制で保育してくれるので、日々の仕事に専念することができています。毎日、笑顔で登園している子どもの姿を見ていると、当院の保育所の在り方が子どもの情緒を安定させているのではないかと感じています。最初は仕事と子育ての両立ができるか不安がありましたが、笑顔で通っている子どもの姿を見ていると、安心して働くことができます。働きやすい環境を整えてくれていることに感謝しています。

育児休暇制度

期 間	子どもが1歳になるまで可能です。
育児時間の活用	生後1歳に満たない乳幼児を育てる職員は母乳やミルクをあげる時間として30分ずつ2回の育児時間を取ることができます。

院内保育所

専門の保育士が24時間体制でお子様をしっかりお世話します。病棟への連絡体制も整っているので安心です。

24時間保育	0歳児～就学前まで
延長保育	夜勤明けの看護師が仮眠をとるために17時までお子さんを預かります。
学童保育	(小学校1年生～6年生まで)

楽しい保育園行事

6月 遠足	7月 夏祭り	9月 運動会
10月 社会見学・遠足	11月 おゆうぎ会	12月 クリスマス
1月 もちつき会	2月 雪まつり見学	3月 卒園式

安心の医療サポート

『診療費用補助』があります。
グループ病院・施設において月々の保険診療費の自己負担が3,000円を超えた場合、外来・入院にかかわらずその超過額を支給します。

- 《本人(職員)と配偶者、両親、子供》
超過額を全額 給付されます。
- 《配偶者の両親、本人の祖父母・兄弟姉妹》
超過額の3分の2が 給付されます。



『健診・人間ドック費用補助』があります。
当院で働くスタッフは、毎年無料で受診できます。さらに、PETなどの検査も、薬剤費用分の負担金で受けることが可能です。

《二親等までのご家族》
10,000円(税別)の負担金で受診できます。

